



オリエンテーションで町職員の仕事を聞く鵜川高の生徒

コロナ対策 企画立案も

鵜川高、町役場で職業体験

【むかわ】鵜川高（三村素道校長、136人）の1、2年生14人が7日、町役場で職業体験を始めた。生徒たちは2カ月かけて、町が用意した新型コロナウイルス対策の企画立案プログラムを実践しながら、町職員の仕事を学ぶ。

同校は就職のミスマッチ防止や生徒に主体性を持たせることなどを目的に、今年から、長期間の職業体験を始め、町が協力。身近な

新型コロナを題材としたプログラムを考案した。提案内容によっては今後、町がアイデアを取り入れる可能性もあるという。

生徒は10、12月に健康福祉課、産業振興課、町教委生涯学習課のいずれかに配属。コロナ禍の中での町の現状と課題を学び、町の施策を考える。一般財源と地方創生臨時交付金などをベースにした予算を組み、12月2日に開かれる、模擬議

会に議案を提出し可決を目指す。

7日はオリエンテーションが行われ、生徒たちは町職員から辞令を受け取った後、町職員の心得や仕事内容に関する説明を聞いた。2年の新井田菜々さん（17）は「コロナ対策の案をたくさん出していきたい」と意気込んだ。（仲沢大夢）